

東京都現代美術館 ワークショップ2023

時を
超え
て
出
会
え

自
分
が
使
う

石

カタチ

時を越えて 自分だけの石^{カタチ}と出会う



《アルビナリリー》の展示風景 (ART TAICHUNG 2023 にて)



《アルビナリリー》 w28 × d18 × h22cm



《リトルアルビナリリー 002》 w13 × d19 × h14cm

講師 佐野 藍 (彫刻家)

2016年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。石彫作品《サクラオオカミ》が東京藝術大学大学美術館に収蔵される。大理石の質感や質量の持つ存在感を用いてドラゴン・幻獣や幻想、人間同士が持ち合わせる精神世界等、目に見えないものを結実させる。また、大理石のポテンシャルである色・柄・質感で徹底的に遊ぶ様に展開している Python シリーズではプリミティブな美を追求し続けている。

彫刻家として歩み始めてから8年。石彫と共にある日常は、小さな手仕事の連続で作って来ました。人との繋がり、制作環境、展示の機会。全て、自分が1歩踏み出すことで作って来ました。かと言って自分1人だけでは得ることはできなかったでしょう。全ては「出会い」によってもたらされた事だと強く感じるのです。

「時を越えて出会う 自分だけの石^{カタチ}」と銘打った今回のワークショップは、身近な存在である「石」を観察したり、触れてみたり、更には削ってみたりしながら、「石との新たな出会い」のきっかけを散りばめた内容となる様企画しました。

正直なところ限られた時間・道具だけで皆さんに「自分だけの石^{カタチ}」との出会いを作ってあげられるのか、ドキドキしながら当日を迎えましたが、ワークショップを通じて皆さんが手で触れて感じながら美術館の石を鑑賞する姿や、大理石の削り心地や道具との初めての出会いを味わいながら作品を作り上げる姿を拝見して、与えられた役割を果たせた喜びとトキメキを、ドキドキ以上にいただいております。

幼い頃から沢山の「出会い」を貰ってばかりの私は、今回美術館よりワークショップの機会をいただき、今度は私が誰かに「出会い」を渡す事が出来ると嬉しくなりました。こうしたきっかけの循環が、芸術における表現や鑑賞の面白さをより広げるのではないかと信じています。

最後に、ワークショップを共にしたすべての方へ、素敵な「出会い」をありがとうございました！この記録冊子は私たちのひとときと、皆さんの出会いの結晶である「自分だけの石^{カタチ}」をまとめた図鑑です。

感謝の気持ちを込めて、お届けします。

彫刻家 佐野 藍



© Kenji Agata

今回のワークショップでは、日頃から大理石による彫刻作品を制作している佐野藍さんを講師にお迎えし、実施しました。私たちの身の回りに改めて目を向けてみると、多くの石が姿形を変えながら存在していることに気が付くのではないのでしょうか。建物に石が多く使われている東京都現代美術館を会場に、その環境の中で石をよく観察したり、実際に削る体験などを通して、石という素材が持つ多様な表情の変化を味わいました。ワークショップが終わる頃、参加者の皆さんは“自分だけの石”^{カタチ}に出会えたはず。本冊子では、そんな当日の様子を凝縮してお届けします。

概要

team A

日時

2023年10月28日(土)
13:30 ~ 16:30

対象

小学生とその保護者のペア

参加者

7組(14名)

場所

東京都現代美術館 地下2階 講堂、水と石のプロムナード、中庭

参加費

3,000円(Aチームは1組あたり、Bチームは1名あたりの金額)

team B

日時

2023年10月29日(日)
13:30 ~ 16:30

対象

中学生以上

参加者

9名

材料・道具

大理石の欠片、大理石ブロック(石割り体験用)、石頭(大理石用トンカチ)、タンガロイ鑿(大理石用鑿)、ダイヤモンドヤスリセット、布ヤスリ(#40・#80)、紙ヤスリ(#120・#240)、アクリル台座(制作物展示用)、ステンレスバット、デスクライト、保護メガネ、作業手袋、ゴム手袋、不織布マスク、ゴミ袋、ぞうきん、鉛筆、消しゴム

当日の流れ

10分 あいさつ

20分 講師の自己紹介 石のことを考える

講師である佐野さんから、ご自身の制作にまつわるお話や、石という素材についてのお話がありました。その後は、参加者自身の身近な石を思い浮かべながら、改めて石という存在に意識を向けていきます。

45分 鑑賞① 石を観察する

佐野さんとともに、建材として石が使われている場所(美術館の敷地内)を巡り、実際に石という素材に触れながら、表情の違いを観察しました。また、石材がもつ特性や加工するための技法についても佐野さんから教えていただきました。

訪れた場所: 水と石のプロムナード、中庭

20分 鑑賞② 大理石と出会う

佐野さんの大理石彫刻を鑑賞しながら、建材とは異なる表現の在り方にふれました。

鑑賞作品:《PythonXXX》2017年、《ピンクドラゴン》2017年、《ANIMA005》2021年、《Python040》2022年、《ANIMA-Origin-》2023年、《道標のスリー-Origin-》2023年

60分 制作 大理石と対話する

石頭を使って大理石を“割る”体験、様々なヤスリを使って“削る”体験をしました。さらに、山積みになった大理石の欠片の中から1つを選び、これらの方法を用いながら“自分だけのカタチ”を生み出していきました。

15分 制作物の発表、参加者同士の表現を鑑賞 大理石の表情を味わう

“自分だけのカタチ”の正面を決めてアクリル台座に展示し、デスクライトでライティングも施したらお互いの表現を味わいます。大理石ごとの表情の違いや、作者の工夫を見比べながら鑑賞しました。

10分 まとめ

佐野さんから、一連の活動に対してのコメントを受けてワークショップ終了です。





NAME : こうき さん team *A*
TITLE : エアーザロック
COMMENT :
でかくてかっこいい



NAME : 千明 さん team *A*
TITLE : バラ
COMMENT :
ポルトガルよりローズオーロラ。
楽しい時間でした!!



NAME : さなさん team A
TITLE : ラッコの子
COMMENT :
なんか…およぎだしそう…



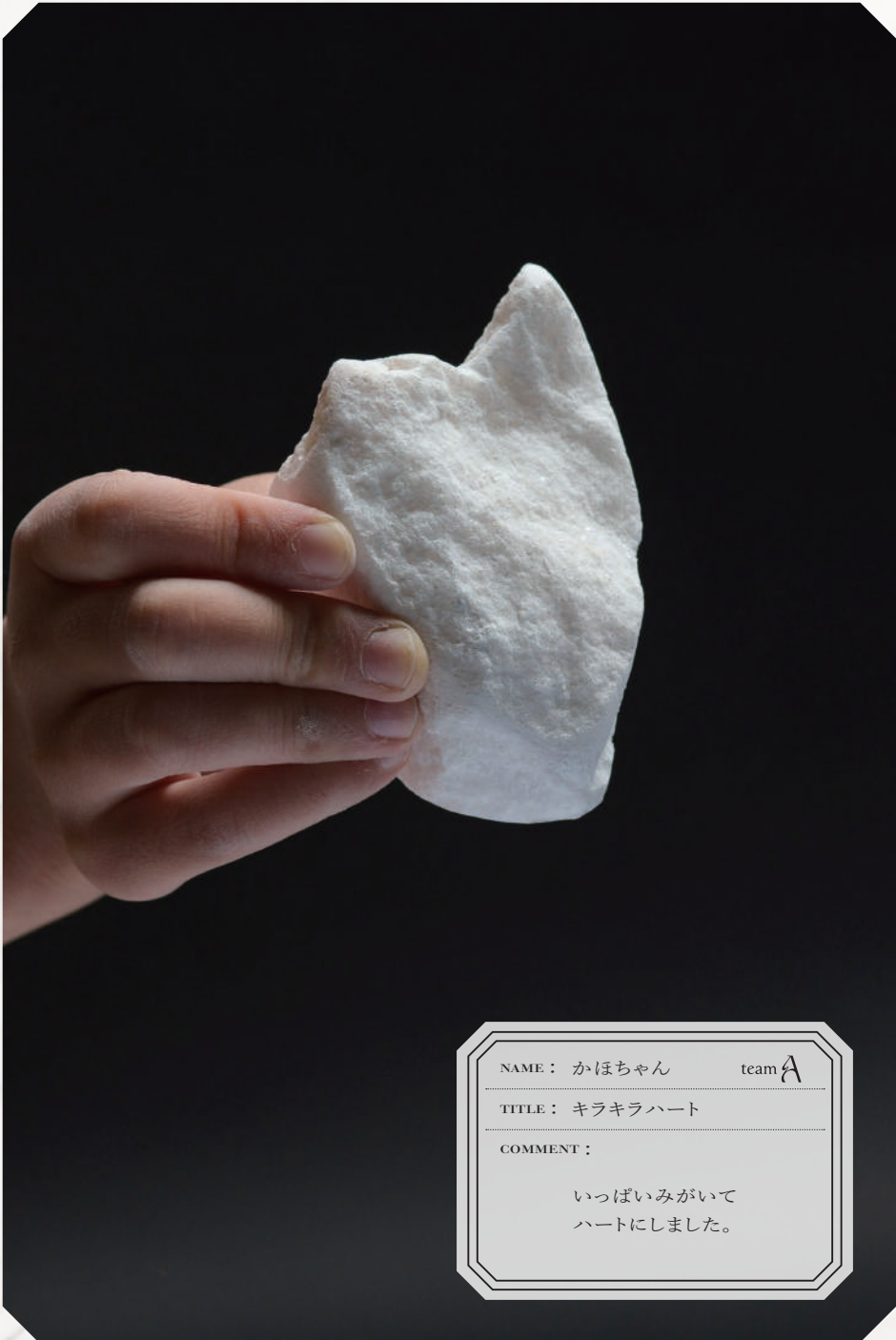
NAME : りゅうくん team A
TITLE : スキマ
COMMENT :
何か落ちつきが悪いぞ…



NAME : かいさん team *A*
TITLE : 岩肌
COMMENT :
山の岩肌をイメージしました。



NAME : ハマノさん team *A*
TITLE : 扇状
COMMENT :
山肌をイメージしました。





NAME : えいとさん team *A*
TITLE : 石やじり
COMMENT :
そうをイメージして
ふかくほりました。



NAME : すぎやまさん team *A*
TITLE : ドレープ
COMMENT :
硬 柔 重 軽



NAME : そうたさん team **A**

TITLE : カイザー

COMMENT :

おうさまみたいでおおきいから
カイザーにしました。



NAME : りさちゃん team **A**

TITLE : marmo

COMMENT :

イタリアの大理石の
表情豊かな美しさに
魅了されました。



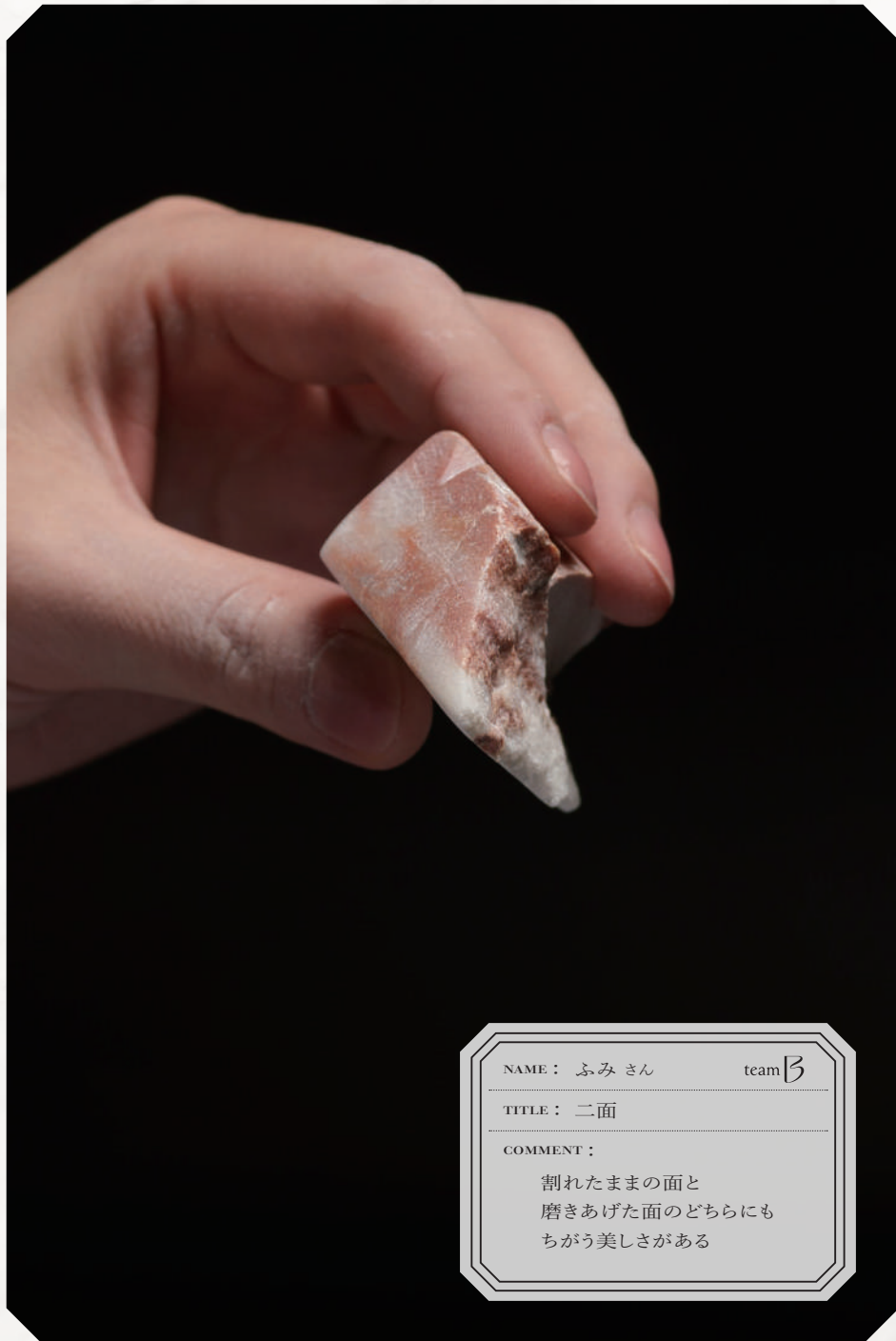


NAME : いわもとさん team B

TITLE : 形 かたち

COMMENT :

無心に削りました。



NAME : ふみさん team B

TITLE : 二面

COMMENT :

割れたままの面と
磨きあげた面のどちらにも
ちがう美しさがある



NAME : ともえさん team B

TITLE : ユキヒヨウの巣

COMMENT :

まっしろでまるい
でもつめたい中であつよい



NAME : ゆめこさん team B

TITLE : 気付かない感じ。

COMMENT :

山とか自然に抱かれてるって私はよく思いますが、
山をギュってだきしめたかんじは知らないし知りたい。
気付かないけど変わっていく山をみつめる感じで。



NAME : タナカ さん

team B

TITLE : 生きているもの

COMMENT :

どうぶつたちがたいせきしてできているから、
生きものみたいなかんじがする大理石



NAME : ゆみ さん

team B

TITLE : なごみ

COMMENT :

ひっかかりのない石を
めざしました。



NAME : ぱっそさん team B

TITLE : 光る風

COMMENT :

流れるような形と
面の風合いのちがいを
たのoshimashita







石との対話を終えて

私たちの身の回りを見渡してみると、探すことに苦労しないほど多くの石があらちちらに存在しています。極めて身近な素材である石ですが、硬いものがほとんどで、私たちの思い通りに変形させることは容易ではありません。そのような、扱わずらくもある石と向き合って作品を制作し続けているのが、今回講師としてお招きした佐野藍さんです。



佐野さんが生み出す大理石彫刻はどれも具象表現であり、そのモチーフはへびのような実存する生き物もあれば、ドラゴンや幻獣のように空想上の生き物である場合もあります。いずれにしても、石が持つ冷たく硬質な印象を超えて、生き物としての柔らかな温もりや、今にも動き出しそうな存在感にあふれているのが特徴的です。作品からは、「超絶技巧」と評されることもあるほど繊細で優れた技術の跡が見て取れますが、手を加えるばかりではなく、石そのものが持つ質感や模様を存分に活かしながら形作っていることにも気が付くはず。佐野さんの作品から感じられる豊かな生命感、技巧のみが成すものではなく、石との十分な対話の上に表現されたことの証であるように感じます。



対話をするということは、自らの意見を述べるばかりでなく、相手の言葉にも耳を傾けなければなりません。自分とは異なる存在と向き合うことは、時に苦悩を伴うこともありますが、一方で自分の枠を超える新たな視点を与えてもらえることもあります。石をあらためて観察してみると、色や形、質感、粒子の大きさによる煌めきの違いなど、それらがもつ個性や特性は様々です。今回のワークショップでは、そういった石の多様な姿にじっくりと辛抱強く向き合いながら石の声を聴き、あらゆる感覚を使って“自分だけのカタチ”を探っていきました。また、照明によって変化する陰影の効果も確かめながら、“自分だけの石”を“作品”へと仕立てていく過程も味わいました。こうした一連のプロセスを経て“自分だけの石”に出会った後、皆さんの日常に広がり^{カタチ}が生まれていたら嬉しく思います。



東京都現代美術館 教育普及係 荒井 美月



東京都現代美術館 ワークショップ2023
「時を超えて出会う 自分だけの石」記録冊子

執筆・編集：佐野 藍
荒井 美月(東京都現代美術館)

撮影：縣 健司

デザイン：小倉 有加里

発行日：2023年11月30日

発行：東京都現代美術館
〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1

©2023 東京都現代美術館
無断転載禁止

東京都現代美術館 ワークショップ2023
「時を超えて出会う 自分だけの石^{カタチ}」

